特集「便利で身近な音楽情報処理」の編集にあたって

平 田 圭 二†

近年の端末技術の進歩や試聴スタイルの変化にともない，音楽情報処理を取り巻く状況は急速に変化しつつある．市販 PC の多くはオーディオ入出力や MIDI 入出力が標準的に装備され，中級オーディオコンポ並のアンプ・スピーカを備えるものもある．MPEG-4 などのマルチメディアデータに対するメタデータ記述形式の普及や楽譜記述のデファクト標準フォーマットに関する動向も見逃せない．インターネットでは楽曲配信ビジネスが隆盛し，インターネットラジオ放送局や iPod を初めとするデジタルオーディオのインフラ普及により一般の楽曲視聴環境は激変した．携帯電話での着メロや検索サービス，プレイリストに関するソーシャルサービスの出現など，音楽関連技術は社会的な広がりを見せている．さらに，そのような環境の向上に支援されて，メディアアートやゲームにおいても音楽関連技術がさかんに利用されるようになっている．

本特集号ではそのような現状を踏まえて，我々のすぐ身近で便利に利用できるようになりつつある音楽情報処理技術をさらに加速し，専門家から一般ユーザにまで広く用いられるような技術，新しくてユニークなサービスをもたらすような技術，他の領域と融合して新しい分野を切り拓くような先導的な研究に焦点を当てることを意図した．前回特集号（2004 年 3 月）の主要トピックであった計算機の介在した作・編曲/演奏/伴奏，音楽信号処理，感性情報処理，デジタル・電子楽器，AI と音楽，音楽学・芸術への応用に加え，音楽配信，流通，視聴，ネットワークサービスに関連した技術，XML と親和性の高い記述フォーマット，新しい音楽応用，新しい音楽 UI，著作権管理技術などもカバーするような論文の投稿を呼びかけた．

論文投稿は 25 件あり，一般論文と同じ査読プロセスを経て（査読期間が 1 カ月と短いことを除く）その内 9 件を採録した（採択率 36%）．英文論文投稿は 3 件あり，内 1 件が採録された．採択率はやや低かった．採録に値する興味深い仕事をしているにもかかわらず，構成やストーリが不十分なために不採録になった論文も幾つかあった．採択論文の分野内訳について，従来からある分野として（カッコ内は件数），計算機の介在した演奏 (2)，音楽音響分析 (2)，音楽分析 (1) があり，新しい分野として，音楽流通，ネットワークサービスに関連した技術 (1)，新しい音楽応用 (2)，著作権管理技術 (1) であった．本特集号の全体的傾向として，ユーザが直接利用可能な技術や音楽の専門家でないユーザを支援する技術に関する論文が多かった．

さらに本特集号では各論文の内容を読者により良く理解していただくため，著者が希望する論文について，その研究内容に関連したサウンドサンプルを集積した．本特集の企画母体である音楽情報科学研究会の Web ページ http://www.ipsj.or.jp/sig/mus/に，そのサウンドサンプル集へのリンクを置いた．実際の音や音楽を聴いていただくと論文の内容をより具体的に理解することができると思う．

今回の採録論文に，コンテンツ制作に関連するものは含まれていないが，コンテンツ論文に科学技術論文とは異なる評価基準を適用することは十分考えられる．現時点でその評価基準は確立されているとはいえないが，今後，音楽情報処理特集号や一般投稿論文においてもコンテンツ論文が増えるであろうことを考えると，早急にその評価基準を検討し明確にすべきであろう．

最後に，本特集にご投稿いただいた著者の皆様，企画案などに適切なコメントを下さった論文誌編集委員会の皆様，論文査読管理システム（PRMS）の操作や運用を補助して下さった学会事務局の皆様に感謝いたします．

「便利で身近な音楽情報処理」特集編集委員会

- 編集長（ゲストエディタ）
  平田 圭二（NTT）

- 編集委員（五十音順）
  小坂 直敏（東京電機大学）
  片寄 晴弘（関西学院大学）
  後藤 真孝（産業技術総合研究所）
  西本 一志（北陸先端科学技術大学院大学）
  平賀 譲（筑波大学）
  堀内 靖雄（千葉大学）

† NTT コミュニケーション科学基礎研究所